

平成 27 年度日耳鼻福岡県地方部会委員会報告

【平成 27 年度学術委員会活動報告】

委員長 梅野 博仁

平成 27 年度福岡県地方部会学術委員会会議

日 時：平成 28 年 3 月 17 日（木）

場 所：博多都ホテル 3F「桂の間」

出 席：上野哲子、梅野博仁、中島寅彦、前田明輝、益田宗幸、龍頭正浩

（五十音順、敬称略）

1. 学術講演会について

いくつかの要望事項が出され、下記の項目を地方部会総会で報告することが確認された。

- 1) 学生や初期臨床研修医の参加費・会場費を無料と明記する。
- 2) 地方部会担当大学の連絡先が明記されていないことがあり、プログラムに明確に記載する。
- 3) 学術講演会の参加者を増やす努力が必要である。
そのためにも、専門医維持の目的で医療安全・医療感染・医療倫理の講習を行うことを検討して欲しい。
- 4) 初期臨床研修医の演題を奨励する。
- 5) 学術講演会第 2 群の後にでも、休憩時間を設けて欲しい。

【平成 27 年度保険医療委員会報告】

委員長 末吉 誠一

福耳会社研委員会との合同委員会を 3 回開催した。他に、九州ブロック保険医療委員会、日耳鼻保険医療委員会全国協議会、日耳鼻保険医療委員会ワークショップ・全国会議、日耳鼻診療報酬改定伝達会議への出席、医事問題合同講習会の開催、保険医療実態調査などを行った。

第 1 回福耳会社研委員会地方部会保険医療委員会

日時：平成 27 年 4 月 22 日（水）19:30～21:00

場所：博多都ホテル

議題：平成 27 年・28 年度職務分掌およびプロジェクト

保険医療講習会

保険診療に関する新入会員のオリエンテーション

メーリングリスト作成

査定に関する疑義

保険診療・疑義および要望についてのアンケート調査

九州ブロック保険医療委員会への提出議題

九州ブロック保険医療委員会

日時：平成 27 年 7 月 12 日（日）9:00～11:30

場所：ホテル熊本テルサ

出席：野上兼一郎、福與和正、熊本芳彦、森 貴稔、松田洋一、末吉誠一

福岡県から下記議題を提出した。

〈質問事項〉

- ・ K344 経鼻腔的翼突管神経切除術 26, 530 点と K339 粘膜下下甲介骨切除術 2, 960 点の同日同時算定について。

〈要望事項〉

- ・ 処置に対する乳幼児加算の拡大と点数引き上げ
- ・ 耳鼻咽喉科特定疾患指導管理料の対象疾患・年齢の制限撤廃と点数引き上げ
- ・ 全ての耳鼻咽喉科検査に対する判断料新設
- ・ アレルギー性鼻炎の免疫療法に対する指導管理料の新設
- ・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算の請求方法変更
- ・ シェロングテストに対する点数新設

第 10 回日耳鼻保険医療委員会全国協議会

日時：平成 27 年 9 月 27 日（日）10:00～13:00

場所：東海大学校友会館

出席：野上兼一郎、福與和正、森 貴稔、松田洋一、吉峯晃一、末吉誠一

演題：「保険診療に関する質疑応答」

「平成 26 年度耳鼻咽喉科実態調査報告」

「診療報酬改定に対する要望」

第 2 回福耳会社研委員会地方部会保険医療委員会

日時：平成 27 年 10 月 7 日（水）19:30～21:00

場所：博多都ホテル

議題：社保審査員交代

日耳鼻保険医療委員会全国協議会の報告

平成 28 年度診療報酬改定について

国保での決定事項

細菌検査の請求

薬剤の適応変更

九州厚生局への情報開示請求

保険診療マニュアルの補足

福耳会講習会

福耳会診療調査、耳鼻咽喉科実態調査

保険診療の疑義

保険医療・医事問題講習会

日時：平成 27 年 10 月 31 日（土）17:00～19:00

場所：博多都ホテル

演題：「福耳会診療調査、耳鼻咽喉科実態調査の報告」

「福岡県の平均診療所モデルの紹介と審査」

「最近の耳鼻咽喉科領域の医事問題」

「医療事故調査制度～福岡県医師会の試み～」

第 3 回福耳会社研委員会地方部会保険医療委員会

日時：平成 28 年 2 月 10 日（水）19:30～21:30

場所：サンライフホテル

議題：日耳鼻保険医療委員会ワークショップおよび全国会議報告

福耳会診療調査、耳鼻咽喉科保険医療実態調査速報

嚙下障害講習会の機器展示

診療報酬改定説明会

新入会員を対象とした保険診療オリエンテーション

保険診療に関するアンケート調査

平成 28 年度保険医療講習会

レセプト審査、査定・返戻の状況

保険診療の疑義

副鼻腔処置について

日耳鼻保険医療委員会ワークショップおよび全国会議

日時：平成 28 年 1 月 30 日（土）17:00～20:00

場所：東海大学校友会館

出席：野上兼一郎、福與和正、森 貴稔、吉峯晃一、松田洋一、末吉誠一

演題：「平成 28 年度診療報酬改訂について- 在宅医療・摂食嚥下障害-」

「保険医療委員会活動報告」

「日本専門医機構による専門医の更新」

日耳鼻診療報酬改定伝達会議

日時：平成 28 年 3 月 20 日（日）10:00～12:00

場所：東海大学校友会館

出席：中川尚志、梅野博仁、野上兼一郎、福與和正、森 貴稔、吉峯晃一、松田洋一、
末吉誠一

【平成 27 年度学校保健委員会活動報告】

委員長 渡辺 滋之

「委員会の開催」

平成 27 年度第 1 回福耳会・地方部会合同学校保健委員会

日時 : 平成 27 年 5 月 14 日 (木) 午後 7 時 30 分

場所 : 〒812-8703 福岡市博多区東比恵 3 丁目 3 番 9 号

大正富山 (株) 九州支店 4F404 会議室 ☎ (092) 451-7831 (代表)

出席者 : 荒木 謙三 稲光 まゆみ 黒木 岳人 野上 兼一郎 樋口 仁美 藤村 武之
横光 智 矢武 克之 横光 智 吉峯 晃一 渡辺 滋之 (敬称略)

平成 27 年度第 2 回福耳会・地方部会合同学校保健委員会

日時 : 平成 27 年 11 月 10 日 (火) 午後 7 時 30 分

場所 : 〒812-8703 福岡市博多区東比恵 3 丁目 3 番 9 号

大正富山 (株) 九州支店 4F404 会議室 ☎ (092) 451-7831 (代表)

出席者 : 荒木 謙三 稲光 まゆみ 嬉野 元喜 野上 兼一郎 濱之上 隆史 樋口 仁美
藤村 武之 矢武 克之 横光 智 吉峯 晃一 渡辺 滋之 (敬称略)

平成 27 年度第 3 回福耳会・地方部会合同学校保健委員会

日時 : 平成 27 年 2 月 9 日 (火) 午後 7 時 30 分

場所 : 大日本住友製薬株式会社 福岡市博多区呉服町 6-10

出席者 : 荒木 謙三 稲光 まゆみ 嬉野 元喜 黒木 岳人 野上 兼一郎 樋口 仁美
森園 哲夫 横光 智 吉峯 晃一 渡辺 滋之 (敬称略)

「平成 27 年度耳鼻咽喉科学校医研修会」

平成 27 年 7 月 25 日 (土) 17:00 都ホテル 3F 「桔梗の間」

薬剤情報提供 (17:00~17:10)

会長挨拶

講演 I (17:10~18:10)

座長 福耳会学校保健委員会担当理事 黒木 岳人

『耳鼻科医として知っておきたい形成外科領域疾患~小児特有の疾患も含めて~』

演者 国家公務員共済組合連合会 浜の町病院形成外科
部長 松本 大輔 先生

講演 II (18:20~19:20)

座長 福耳会学校保健委員会担当理事 渡辺 滋之

『耳鼻科医として知っておきたい小児感染症の知識』

演者 福岡歯科大学総合医学講座小児科分野 教授 岡田 賢二 先生

共催 福岡県医師会

福岡県耳鼻咽喉科専門医会

塩野義製薬株式会社

「出務」

- I 第 59 回九州ブロック学校保健・学校医大会 渡辺 滋之
平成 26 年 8 月 1 日（土）、2（日）長崎市 ホテルニュー長崎
「子どものいのちを守り すこやかに育む環境づくりのために」
耳鼻咽喉科部門
講演 I : 「補聴器・人工内耳の進歩と難聴児の教育～人工内耳手術
400 症例と学校訪問 140 校の経験から～」～
演者 耳鼻咽喉科神田 E・N・T 医院院長 神田幸彦 先生
講演 II : 「小児滲出性中耳炎の年齢による治療方針」
演者 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
教授 高橋晴雄 先生
- II 第 46 回全国学校保健・学校医大会 渡辺 滋之
平成 27 年 12 月 5 日（土）松山市 松山全日空ホテル／愛媛県医師会館
「みんなで見守る子供の成長」
第 4 分科会【耳鼻咽喉科】抄録集はホームページ <http://www1.ehime.med.or.jp/school-46/>
に公開。 ID : school46 パスワード : ehime を入力してダウンロード
- III 平成 27 年度日本耳鼻咽喉科学会学校保健全国代表者会議ならびに学校保健研修会
平成 28 年 1 月 30 日（土）、31 日（日）東京 東海大学交友会館
稲光 まゆみ 黒木 岳人 藤村 武之 渡辺 滋之
協議
1. 耳鼻咽喉科の健康診断マニュアルについて
2. 全国定点調査について
研修会
1. 小児の吃音—その見方とお耳鼻咽喉科医に求められる対応—
国立障害者リハビリテーションセンター学院 言語聴覚科
教官・言語聴覚士 坂田 善政 士
2. きこえにくさを訴える子ども達
① 聴覚過敏を訴える子ども達の事情
県立広島病院 小児感覚器科 主任部長 益田 慎 先生
② 聴力正常の子ども達 浅野耳鼻咽喉科医院院長 浅野 尚 先生

- 「福岡県学校保健委員会」 渡辺 滋之
第 1 回学校保健委員会
平成 27 年 7 月 16 日（木）18 : 00 福岡県医師会館 6 階研修室 3
1. 目的事項
(1) 運動器検診に関するモデル事業について
(2) 第 40 回福岡県学校保健・学校医大会について
2. 報告事項

- (1) 性と心の健康相談事業について
- (2) 平成 27 年度食物アレルギー・アナフィラキシー対応に係る研修会について

第 2 回学校保健委員会

平成 28 年 2 月 25 日（木）18：00 福岡県医師会館 6 階研修室 3

1. 目的事項

- (1) 尿異常の詳細報告について
- (2) 「私立学校などへの学校検尿結果開示要望書」の提出先について
- (3) 尿異常分類変更への対応状況や三次検尿受診向上のための郡市医師会あるいは各自治体単位で行っている方策などについて
- (4) 学校保健安全法施行規則一部改正においての変更点における各郡市医師会の対応準備について
- (5) 生活習慣病予防を含めた、身長・体重・肥満曲線の今後の活用について
- (6) 平成 28 年度の児童生徒の健康診断における学校医への協力の依頼について

2. 報告事項

- (1) 平成 27 年度九州学校検診協議会及び第 59 回九州ブロック学校保健・学校医大会について
- (2) 第 46 回全国学校保健・学校医大会 について
- (3) 第 40 回福岡県学校保健・学校医大会について
- (4) 性と心の健康相談事業連絡協議会について

平成 27 年日耳鼻学校保健委員会発行の耳鼻咽喉科学校保健の動向に記載されている疾患（所見）名と判定基準についての項を抜粋して福耳会メーリングリスト配信

学校保健委員会メーリングリスト 2 月 10 日より開始

【平成 27 年度福岡県地方部会福祉医療委員会報告】

委員長 稲光 まゆみ

I. 活動報告

1. 平成 27 年度は福耳会・地方部会合同福祉医療委員会を 3 回開催した(議事録は後記)。
2. 第 21 回補聴器キーパーソン全国会議(平成 27 年 6 月 20 日 21 日 豊中市)に参加
出席者：麻生正美
3. 平成 27 年度日耳鼻福祉医療・成人老年委員全国会議(平成 28 年 1 月 30 日 東京)に参加
出席者：麻生正美、稲光まゆみ
4. 平成 27 年度日耳鼻福祉医療・乳幼児担当者会議(平成 28 年 1 月 30 日 東京)に参加
出席者：原 崇
5. 平成 28 年 3 月 13 日 第 3 回嚙下障害講習会を福耳会と共催した。
6. 地方部会会員への周知活動として、以下の情報提供を行った。
 - ・ 補聴器相談医更新のための講習会の今後の開催予定について
 - ・ 聴覚障害 2 級の認定時の他覚的検査(ABR もしくは ASSR)について
 - ・ 難病患者に対する補装具費支給の対象疾患変更について(障害者総合支援法)

II. 議事録

- 第1回地方部会・福耳会合同福祉医療委員会

日 時：平成 27 年 6 月 25 日(木) 19:30~21:00

場 所：MSD 株式会社

出席者：麻生正美、稲光まゆみ、嬉野元喜、川口壽郎、川口 博、佐藤祐司、柴田美雅、末吉誠一、野上兼一郎、原 崇、平木基裕、藤田真知子、安松千絵、山下道子、吉村 徹(五十音順)

【野上福耳会会長挨拶】

【報告事項】

1. 「言語聴覚の日」無料相談会出務の件(稲光委員長)
 - ・ 平成 27 年度「言語聴覚の日」無料相談会出勤者について、担当者を決定した。
2. 補聴器キーパーソン全国会議報告(麻生委員) 議事録は後記
3. 嚙下障害のアンケート調査結果について(川口壽郎副会長)
 - ・ 回答は 93 名で A 会員のほぼ半数であった。
 - ・ 歯科医と連携している耳鼻科医は 52 名である。連携がスムーズになるように、福耳会のホームページに医療機関リストを掲載する。
 - ・ 嚙下講習会開催の頻度は 1 年に 1 回の希望が多かった。

【協議事項】

1. 食物アレルギー負荷検査について(藤田委員)
 - ・ 質問：アレルギー科を標榜しているので保育園提出用の診断書作成を求められ、食物アレルギー負荷検査が必要になったが、負荷検査の実施や急変時の対応はどうし

ているか。

- ・ 食物アレルギー負荷検査は9歳未満の患者に対し年2回まで保険点数を算定できるが、そのためには九州厚生局に申請が必要である。但し「食物アレルギーの診療経験を10年以上有する小児科医師が常勤する」ことが条件である。
 - ・ 耳鼻科では急変時の対応が難しいので、慎重を期すべき。負荷検査は食物アレルギー診療経験があり、アナフィラキシーに対応する体制の整った小児科で実施した方が安全。
2. 聴覚障害2級の認定について（稲光委員長）
- ・ 新規で2級に認定する場合、詐聴を除外する検査としては、ABR以外にも遅延側音検査、Lombard検査、Stenger検査などが挙げられているが、実際には困難、かつ客観的データを診断書に添付できない。
 - ・ 前回の委員会ではABR検査は県内4大学と基幹病院（麻生飯塚病院）で施行するのが妥当としたが、患者さんの利便性を考えて、15条指定医がおりABRを実施できる医療機関をリストアップし、会員に周知する。
 - ・ 純音聴力検査が2級レベルであっても他覚的検査が実施されていない場合は、指定医の意見として「(他覚的検査の不要な)3級に該当する」と申請し、その後2級に再認定するという方法もあるが、この方法の妥当性についてはもう少し検討が必要。
 - ・ 差し当たって、他覚的検査を実施せずに2級を申請する症例は少ないと推測され、その場合の対応は判定医に一任する。
3. 補聴器相談医更新のための講習会について（稲光委員長）
- ・ 補聴器相談医更新のための講習会は、九州連合地方部会に合わせて各大学主催で行われているが、4年連続福岡県内で行われた後、福岡県外での講習会が続いており、参加しにくい。九州連合地方部会を隔年で福岡県内で開催してもらおうよう働きかけてはどうだろうか。
 - ・ 福岡県の補聴器相談医は、平成30年に次回の更新を迎える人数が多い。更新前3年以内に1単位以上を受講する必要があるため、平成29年度の九州連合地方部会開催地が福岡県内でない場合、福耳会主催で講習会を行う方向で検討する。
4. 難病指定医について（野上会長）
- ・ 平成27年7月から難病医療費助成制度が306疾病に拡大される。新たな対象疾病の中で、耳鼻科に関連するのは、好酸球性副鼻腔炎、遅発性内リンパ水腫、若年発症型両側性感音難聴、アッシャー症候群などである。
 - ・ 難病指定医の指定を受けるためには、申請手続きが必要である。この場合、日耳鼻専門医であれば講習は不要。

● 第2回地方部会・福耳会合同福祉医療委員会

日時：平成27年11月5日(木) 19:30~21:00

場所：鳥居薬品株式会社福岡支店 5階 会議室

出席者：麻生正美、稲光まゆみ、嬉野元喜、川口壽郎、川口 博、佐藤祐司、柴田美雅、末吉誠一、富田和英、中川尚志、中島寅彦、野上兼一郎、原 崇、平木基裕、

藤田真知子、松尾浩一、安松千絵、山下道子、吉村 徹（五十音順）

【野上福耳会会長挨拶】

【報告事項】

1. ABR・ASSR検査実施可能施設の周知について（稲光委員長）
 - ・ 聴覚障害2級の初回認定に必要な他覚的検査が可能な施設について会員への周知を行ったとの報告があった。
2. 今年度の言語聴覚の日の医師派遣について（稲光委員長）
 - ・ 今年度は福岡地区のみへの派遣（松本 希先生、山下道子先生）であったことが報告された。
3. 耳鼻科の在宅医療（訪問診療）に関するアンケートについて（稲光委員長）
 - ・ 10月下旬にアンケートが地方会会員あてに発送されたことが報告された。

【協議事項】

1. 嚙下講習会の件（川口壽郎副会長）
 - ・ 平成28年3月13日（日曜）に予定されており、7名の講師には内諾を取ってある。
 - ・ 案内については、福岡県地方部会から九州地区の地方会を通して日耳鼻会員に発送する予定である。
 - ・ 会場について①西日本シティ銀行福岡支店 ②北九州銀行福岡支店 ③都ホテルの3会場が候補として挙がっている。収容人数、予算などを再度確認して決定することとなった。
 - ・ 当日の会費、講師への謝礼については未定。
 - ・ 胃瘻造設時嚙下機能評価のための研修に該当するかどうか、中川委員に確認してもらおう。
2. 福岡県歯科医師会との連携について（川口壽郎副会長）
 - ・ 歯科医師会側の事情により具体的な連携が進んでいないことが報告された。今後連絡をとり連携を進めていきたい。
3. 特別児童扶養手当認定基準と診断書様式の改定の件（稲光委員長）
 - ・ 平成27年6月に改正され、10月1日から適用となった。メーリングリストを通じて会員への周知を行うこととなった。
4. 聴覚障害2級の認定について（中川委員）
 - ・ 聴覚障害2級の初回認定の際の変更事項についての説明があった。
 - ・ ABR等の他覚的聴覚検査またはそれに相当する検査が必要である。
 - ・ 種々の事情で他覚的検査が実施できないケースの場合は、等級を下げて3級で申請するか、2級で申請して更正相談所で3級に下位認定されるかのどちらかになるが、期間を開けて再申請を行うことにより、2級に認定される。
 - ・ 15条指定医師への周知が必要であり、他覚的検査を受けずに申請をする患者には、担当医師から十分な説明が必要。
5. 身体障害者診断書・意見書の様式、記載について（末吉委員、佐藤委員、山下委員）
 - ・ 本年4月の聴覚障害2級の認定方法変更に伴い、診断書・意見書に変更が加えられた。福岡県、福岡市、北九州市の様式には若干の違いがあり、将来的には統一する方向で考えることになった。

【その他】

1. 「3歳児聴覚検診アンケートの御礼、厚生省方式採用および1歳6か月児健診での日耳鼻リーフレット採用のお願い」について（原委員）
 - ・ 上記を各自治体あてに送付したとの報告があった。
2. 就学前児童に対する言語発達の検診について（藤田委員）
 - ・ 筑後地区での取り組みについて紹介された。小児専門の言語聴覚士が少なく事後の受け皿がないなどの問題がある。今後学校保健委員会での協議も必要。

● 第3回地方部会・福耳会合同福祉医療委員会

日 時：平成28年2月4日(木) 19:30~21:00

場 所：マイラン EPD 合同会社 8階 「会議室」

出席者：麻生正美、稲光まゆみ、嬉野元喜、川口壽郎、川口 博、坂田俊文、佐藤祐司、柴田美雅、末吉誠一、富田和英、中川尚志、中島寅彦、野上兼一郎、原 崇、平木基裕、松尾浩一、村塚幸穂、安松千絵、山下道子、吉村 徹 (五十音順)

【野上福耳会会長挨拶】

【報告事項】

1. 平成27年度福祉医療・乳幼児担当者全国会議の報告（原委員）
2. 平成27年度福祉医療・成人老年委員全国会議の報告（稲光委員長）
3. 障害者総合支援法改正の通知（稲光委員長）
 - ・ H27年12月に、同法に沿った補聴器の申請にあたっては、各地域の更生相談所の担当医に相談するように福耳会MLで会員に連絡した。今のところ福耳会会員からそのような案件の相談は出ていない。

【協議事項】

1. 嚙下障害講習会の件（川口壽郎副会長）
 - ・ 日時：2016年3月13日（日）9:20~15:40
 - 場所：博多座・西銀ビル13階「NCBリサーチ&コンサルティング」
 - 参加人数：100名~150名（見込み）
 - 会費：7,000円
 - ・ 当日の受付担当について：下記担当者を決めた
福岡地区：吉村委員 北九州地区：原委員、佐藤委員 筑後地区：富田委員
県外：末吉委員
 - ・ 参加確認証・領収証を事前に参加者に送付し受付に持参してもらう。
 - ・ 終了後の修了証配布について：参加人数が確定した後に委員で配布を手伝う。
あらかじめ地区ごとに机に並べておく。修了証の形式は川口壽郎委員に一任。

【その他】

1. 小児専門の言語聴覚士が在籍する施設について（稲光委員長）
 - ・ 施設名のリストアップを言語聴覚士会に依頼している。小児科、耳鼻咽喉科の専門医会会員にもアンケートを取る予定であることが報告された。
2. 耳鼻咽喉科開業医が在宅医療現場でどのように嚙下障害に関わるべきか(野上会長)

- ・ 多職種合同の嚙下講習会開催、多職種に対するアンケート調査等の提案があった。
- ・ 耳鼻咽喉科専門医会としてどのように他職種と連携を取るべきか今後検討が必要であるとの意見が出された。

● 平成27年度日耳鼻福祉医療・成人老年担当者全国会議

日 時：平成 28 年 1 月 30 日

場 所：東海大学校友会館

出席者：麻生正美、稲光まゆみ

報告事項

平成 26・27 年度事業報告および平成 28 年度事業計画

講演：平成 28 年 4 月 1 日に施行される障害者差別解消法について、説明がなされた。

差別解消法・基本方針のあらましについて

厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部企画課 課長補佐 小牟禮まゆみ

医療関係事業者向けの対応指針について

厚生労働省 医政局総務課 企画法令係長 吉田 啓

協議事項

1. 各地域での福井医療の実情・問題点について

- 1) 聴覚障害で特別児童扶養手当 1 級の受給者（つまり平均聴力 100dB 以上）が、成人して（基本は 18 歳）障害年金を受ける際には、もう一度 ABR などの他覚的検査が必要である（兵庫県、三重県での報告）。患者の状況を行政に理解してもらい、他覚的検査を省略できるよう努力を続ける必要がある。
- 2) 新専門医制度では、補聴器相談医の委嘱ないし更新のための講習会は耳鼻科領域講習の 1 時間 1 単位（上限 2 単位）となる。

2. 補聴器キーパーソンに対するアンケート

- 1) 認定補聴器技能者あるいは認定補聴器専門店に不適切な対応が散見される。
 - ・ 再調整や修理の要望に対する不適切な対応
 - ・ 認定補聴器技能者が常駐していない
 - ・ 補聴器の適応がない人に販売した
 - ・ チラシに医療行為のようなことを書いている
 - ・ 農協での販売
 - ・ 身体障害者制度の情報を提供しない
 - ・ 高価な補聴器の販売

このような場合、基本的には補聴器相談医が指導すべきであるが、相談医での解決が難しい場合は、キーパーソンへの連絡、最終的にはテクノエイド協会に通知する方法が考えられる。

- 2) 認定補聴器専門店への情報提供書を点数化してほしい 補聴器の交付を処方箋化してほしいとの要望が日耳鼻会員からあり、学会からは担当部局へ引き続き要望を出している。
- 3) 認定補聴器技能者が補聴器を販売している割合は 70%を超えており、今後 3 年で 80%を超える見込みである。

3. 「難病指定医」制度について

平成 27 年 7 月 1 日から新たな難病医療費助成制度が始まっており、耳鼻科専門医は指定医の申請をしてほしい。(指定難病数は 306 疾病に拡大されており、厚生労働省のホームページに診断基準等が記載されている。)

4. 耳鼻咽喉科医療機関で補聴器を販売することに対する見解 (平成 28 年 1 月 23 日)

耳鼻科医師が療養の向上を目的とした場合に限って、難聴患者に直接に補聴器を有償で交付することが可能 (厚労省からの事務連絡)。ただし以下の条件を満たすこと。

- ・必ず患者を診察して診療に随伴する販売とすること。
- ・販売後の再調整、修理の要望に適切に対応すること。
- ・販売する補聴器は新品であること (包装を解いていないこと)。
- ・販売する医師は、認定補聴器技能者の資格更新の書類に署名押印できない。

【平成27年度 補聴器キーパーソン活動報告】

麻生 正美

第 41 回全国身体障害者福祉医療講習会

第 21 回補聴器キーパーソン全国会議

日時：平成 27 年 6 月 20 日（土）、21 日（日）

場所：大阪 千里阪急ホテル

6 月 20 日（16：30～18：00）

補聴器キーパーソン全国会議

議題

1、「補聴器適合に関する診療情報提供書」および「補聴器適合に関する報告書」の改定について

氏名の欄の下に書いてあるが、再調整・修理の場合は 2（オーディオグラム）、7 の記載で可

I、新規・更新用補聴器適合のための診療情報提供

1、耳科に関する医学情報

診断名に病名を書くのではなく、難聴の種類を書くようにしたのは、オーディオグラムだけでは、認定技能者が判定できないことがあるので、入れるようにした。術後耳を入れたのは、耳型採型の場合に事故を防ぐため。鼓膜所見に異常あり、なしを入れた。

2、純音聴力に関する情報

オーディオメータを記載もしくは添付する。気道、骨道を必ず記入することここまで（1P）が必ず記載となった。2P 以降は可能な限り、記載することとした。

3、ことばの聞き取りに関する情報

語音明瞭度をはずした理由は、実際に施行している施設が増えていないため、提供書の普及のためにはずした

その分は以下の、ことばの聞き取り状況欄に記載する。

静かな室内で 1m 離れての会話とは、診察室での患者との会話の状況を表している。

4、装用耳に関する情報

装用耳を決められない場合を想定して、どちらでも可、両耳・片耳いずれでも可、試聴後本人の希望で決めるを入れた。

難聴者はより小さい耳あな型を希望しやすいが、耳かけ型の方が、機種や機能も豊富で、調整しやすく、やや低価格である。その内容をよく説明をし、耳かけ型で試聴をして、充分適合を確認し、難聴者に納得をしてもらい、その後、耳あな型を作成するように、販売店を指導する。

5、補聴器の選択・調整・修理などのための診療情報提供

聴力が変動する、仕事上で騒音下と静寂時で調整が必要、会議用とその他の場合等の調整を変えるなど、特に注意して調整の必要がある場合に記載。

II、補聴器の再適合・再調整・修理などのための診療情報提供

聴力が変化している場合は必ず、変化がない場合でも最新のオーディオグラムを

添付

そうすれば 1~6 まで省略可

1、補聴器調整が必要な理由

該当するものをすべてチェックする。該当項目がない訴えは、その他に記載。

2、修理が必要な理由

時々不具合がでる場合は、販売店ではわかりづらいので、難聴者の訴えを詳しく記載。

3、修理後の再調整

難聴者の意見を尊重して記載。

修理後聞こえが悪くなったとの訴えがある。この場合は修理前後で調整が異なっている可能性があるので注意が必要

Ⅲ、補聴器適合に関する報告書

報告に基づき補聴器相談医が補聴器適合検査を実施したり、適合が適切かどうかの判断をおこなうため。

補聴器 1 台につき 1 枚必要

詳細は記載要領

改訂版は日耳鼻のホームページに記載

質疑応答

語音明瞭度を復活してほしい。

補聴器適合に関して必要

診療報酬アップにつながる（審査の Dr）

診療情報提供書の普及のため、必須をはずした

2、特別児童扶養手当、障害児福祉手当および特別障害者手当の障害程度認定基準および認定診断書の様式改正について

資料は案となっているが、近いうちに公表される(10月1日より適用予定)

身障者 2 級の認定改正に伴うかたちで変更

1 級が身障者の 2 級に相当

特別児童扶養手当を受給していない児童、または身障者手帳を取得していない児童に、1 級の診断をする場合は、オーディオメータに加えて、ABR 等の他覚的検査が必要となる。

音声言語の認定も大幅に変更された

現在までは、末梢に近いところの障害による音声言語障害の認定が主で、失語症が含まれていなかった

国民年金の障害認定の変更に伴い変更された

失語症の診断基準を取り入れた

失語症の判定は耳鼻科医単独では無理で、ST や神経内科の協力が必要（日耳鼻福祉医療委員の返答）

3、その他

難病指定の疾患が 150 から 300（7月1からの予定）

削除される疾患にメニエル病が含まれる

現在サービルを受けている場合はしばらく継続する
補聴器相談医の更新について、さまざまな理由（留学、病気療養、出産等）で講習を受けられなかった場合

特別免除規定が明記されていない。現在までは問い合わせがあった際に、個別に対応している。

福岡県は以前転居のため、申請できなかった例があり、翌年講習を受けることで更新可となった

今後規定を作成する予定

6月21日（日）（7：30～9：00）

補聴器キーパーソン・モーニング・クローズド・ミーティング

議題

1、補聴器キーパーソンアンケート結果について

耳垢栓塞の難聴者に補聴器を販売

テクノエイド協会を通じて、販売店に連絡し、代金は返金（大阪市）

（販売店が補聴器販売店協会に加入していたため）

福岡県でも同様の例があったが、販売店協会に加入していなかったため、返金できずオトスコープで外耳道に耳垢や異物の有無を確認し、補聴器の装用が可能かどうかを見る

難聴者を集め、無料で聴力測定を実施し、補聴器を販売する

宣伝として利用し、補聴器の装用に関して、医学的判断をすることになるので、日耳鼻より、テクノエイド協会に申し入れをする

悪質な補聴器販売は、全国的には、新日本補聴器、北陸補聴器、農協による補聴器販売

農協で組合員が購入した場合は、クーリングオフが利用できない

現在の補聴器購入の約 1/3 は耳鼻科よりの紹介（7年前は約 10%）

補聴器の約 70%は認定補聴器技能者による販売

山形県は身障者 2 級を認定できる施設を、県の更生相談所の嘱託医が指定した熊本県（郡部）で、メーカーが直接めがね店に行き販売する

販売店には補聴器技能者はいない

購入後の調整等ができない

高額な補聴器を購入させられている

2、その他

身障者 2 級の診断書の作成の際の、ABR 等の等には、どんな検査が含まれるか

ASSR、遅延側音検査 (delayed side tone test)、

ロンバールテスト (Lombard test)、ステンゲル テスト (Stenger test)

OAE ははらない

福祉医療成人老年委員会全国会議に出席した（平成 28 年 1 月 30 日：東京）

詳細は福祉医療委員会報告に記載

①平成 27 年度福祉医療・乳幼児担当者会議出席（H27.1.31 東海大学校友会館）

1. 28 年度事業計画

- ・乳幼児聴覚健診の実態把握に努め、精密聴力検査に関わる円滑なシステム作りを考
える。
- ・1 歳 6 カ月児健康検査及び 3 歳児健康診査リーフレット（第 2 版）、耳鼻咽喉科医
のための 3 歳児健康診断診査の手引き（第 3 版）の普及に努める。
- ・新生児聴覚スクリーニングの手引き（産科医向け）を作成する。
- ・関係団体（産科、行政、メディア）と連携し、福祉医療活動を支援する。

2. 26 年度 3 歳児聴覚健診および 1 歳 6 カ月児聴覚アンケート調査報告

全国的には大きな変化なく例年通り。

福岡県の間診票＋ささやき声による自己検査（厚生省方式）普及率は、43.3%と
微増。福岡市や中間市などの採用により、人数ベースでは 62.5%。3 歳児聴覚健診
の受診率は 92.4%（昨年 84.3%、一昨年 48.3%）と、大きく改善している。

3. 平成 27 年度人工内耳実態調査

アンケートで集積された人工内耳全症例数は 1009 名（H19 年度アンケートの 3
倍）であった。適応基準改定による術後トラブルや手術難易度の上昇を示唆する結果
は得られなかった。1 歳 6 カ月未満 66 名（H24 年比 2 倍）。両側人工内耳（2 個
目の人工内耳）が増加しており、さらに両側希望の患者が増えると思われる。

その他に

聴覚スクリーニング後の精密聴力検査機関実態調査報告、
精密聴力検査機関リストの改定について
新生児スクリーニングの公費負担要望について
などが報告された。

②その他の活動内容および今後の方針

今年度は 3 歳児検診アンケートの際に、各自治体宛に 3 歳児検診時の厚生省方式採用、
および 1 歳 6 ヶ月検診時のリーフレット採用の依頼文を配布し採用をお願いした。
来期は上記に併せて、難聴児の早期発見がもたらす利益、新スクを含めた早期発見体制
の維持・強化について発信していく予定である。

【平成 27 年度産業・環境保健委員会活動報告】

委員長 鈴木秀明

I. 活動報告

1) 選別聴力検査実務講習会

平成 27 年 8 月 19 日（名古屋）、平成 27 年 8 月 26 日（大阪）、平成 28 年 1 月 27 日（東京）の 3 回開催された。受講者数はそれぞれ 56 名、64 名、119 名であった。

2) 純音聴力検査講習会

平成 27 年 12 月 14～15 日に東京で開催された。参加人数は 53 名であった。

3) 第 22 回日耳鼻産業環境保健講習会（騒音性難聴の部）

平成 28 年 1 月 28～29 日に東京で開催された。鈴木が「産業医学概論」のテーマで冒頭の講演を行った。参加人数は 51 名であった。

4) 日耳鼻ホームページに掲載されている日耳鼻認定騒音性難聴担当医の名簿を更新し、日耳鼻事務局に提出した。最新版が同ホームページで公開されている。

5) 日耳鼻騒音性難聴担当医の産業医の分野での活用について、福岡県産業保健推進センターと随時情報交換を行っている。

6) 平成 27 年度日耳鼻産業・環境保健委員会全国委員長会議

平成 28 年 1 月 30 日（土）に東京で開催され、全国 47 都道府県から 53 名の参加があった。福岡県からは鈴木が出席した。内容は下記の通りである。

II. 日耳鼻産業・環境保健委員会全国委員長会議

平成 27 年度日耳鼻産業・環境保健委員長会議は、平成 28 年 1 月 30 日（土）に東京都千代田区霞ヶ関 東海大学校友会館で行われた。テーマは「日耳鼻産業・環境保健活動の現状と展望について」であった。原 晃坦当理事の開会の辞、久 育男理事長の挨拶の後、以下の講演、報告があった。

1) 厚生労働省 労働基準局安全衛生部 労働衛生課長 武田康久氏より「労働衛生行政の動向について」の講演があった。

2) 佐藤委員長、原担当理事、和田委員より、日耳鼻産業・環境保健委員会活動報告があった。平成 27 年 6 月に行われた産業保健総合支援センターの騒音性難聴担当医受け入れに関する調査の結果が報告された。

3) 地方部会産業・環境保健委員会報告として、埼玉県、石川県、および兵庫県から平成 27 年度活動報告があった。

質疑応答の後、佐藤宏昭坦委員長の閉会の辞にて終了となった。

【平成27年度医事問題委員会活動報告】

委員長 西平 修

①平成27年度 福岡県地方部会・福耳会合同医事問題委員会(第1回)

平成27年8月5日

議題

- 1) 第40回日耳鼻医事問題セミナーについて報告
- 2) 10月31日の福耳会講演会における医事問題に関する演題
- 3) 今後の委員会活動について

②平成27年度 福岡県地方部会・福耳会合同医事問題委員会(第2回)

平成28年3月8日

議題

- 1) 福岡県耳鼻咽喉科専門医会 保健医療・医事問題講習会についての報告
- 2) 平成27年日耳鼻医事問題ワークショップおよび全国会議報告
- 3) 平成28年福耳会医事問題についての講習会について

③第40回日耳鼻医事問題セミナーについて

平成27年6月27日(土)、28日(日)島根にて

出席: 西平、村塚、金崎

<内容>

1. 島根県地方部会医事問題アンケート調査結果

地方部会員39名(開業医25名、勤務医14名)

内容は他県に比べて大差はないが、医事紛争は一件もない。(インシデント・アクシデントはあり)

2. 地域におけるがん診療連携拠点病院での医療安全管理

- ・地域においては、がん診療連携拠点病院は大学病院。
- ・小規模病院では、医師、看護師の不足から、医療安全専従者を確保できず、さらに現場の医師の関心が薄いこともあり、このことが医療事故に起因する。
- ・医療事故は初期は、投薬ミス、患者とり違いであったが、最近はその倫理感が問題となっている。
- ・日本は医師の安全倫理の意識が低い。
- ・医療安全を医学の1つ、科学の1つと考え、公衆衛生大学院の造設が必要である。
(現在は東大、京大、帝京大の3ヶ所のみ)

3. 医療情報の適正管理と問題点

病診連携で送るFAX(患者紹介など)にも同意書が必要である。

4.耳鼻咽喉科領域の救急疾患－医師過疎地域での取り扱いの基本－隠岐島前病院

隠岐島前病院(一般病床20、療養型24)は本土よりフェリーで2時間半。

対象人口6000人で離島の総合医8名でカバー。

2014年よりまめネット(島根医療情報ネットワーク)を使ってインターネットで画像送付し、相談、カルテの連携などを行っている。耳鼻科については月に1回島根大学より診療応援を受けている。(年に550人の患者)

その日以外は年200人の耳鼻科の患者がある。(外耳炎、中耳炎、めまい、耳垢、扁桃周囲炎、喉頭蓋炎など)

5.耳鼻咽喉科領域の救急疾患のマネジメント－当科の治療経験から－

島根大学医学部耳鼻咽喉科 教授 川内 秀之

6.医事紛争における島根地域の特色－風土や人間性からの考察－

島根70万人、鳥取50万人だが紛争数は1対2で鳥取に多い。島根は和解が多い。

7.アナフィラキシーショック、救命救急の現状と対応

アナフィラキシーは年間1000人その内50人程度死亡。

アナフィラキシーの症状は、皮膚症状、呼吸器症状、めまい、血圧低下、頭痛、腹痛、嘔吐など。血圧低下、冷汗、頻脈、意識障害があるとアナフィラキシーを疑う。

薬剤性アナフィラキシーは5分～30分後に現れることが多いし、再投与にて起こることもある。気道確保、換気不全(酸素)の改善、循環(心)の改善

治療は①アドレナリン筋注0.3～0.5ml 小児は0.01ml/kg ②酸素 ③ステロイド

アドレナリン筋注の注意はβブロッカー(高血圧)使用者、α刺激剤使用者(前立腺肥大)では効果がでにくい。

その際はグルカゴンを使用する。

④平成27年度日耳鼻医事問題委員会ワークショップおよび全国会議

平成28年1月30日(土)東海大学校友会館にて

出席:西平、村塚、熊本

<内容>

1. 委員会報告(第41回日耳鼻医事問題セミナーを平成28年6月18日、19日長崎にて行う)

2. アンケート調査結果報告

平成27年度期間中での医療事故発生件数66件(紛争51件、紛争に至らず15件) その年度

より継続25件

多い県は大阪12、神奈川11、愛知8、東京7、福岡・静岡・兵庫4

3. 事例報告

耳領域は全体の20% 耳処置によるものが多い。

(耳垢除去による穿孔、出血。補償金3～250万円)

鼻の領域は全体の30% 手術によるものが多く、その半数はESS。(補償金400～3300万)

口腔咽喉頭領域は全体の20%

頭頸部領域は全体の20%。手術が40% 診断40%

【平成 27 年度広報委員会活動報告】

委員長 末田 尚之

平成 27 年度福岡県地方部会広報委員会会議

日 時：平成 28 年 3 月 10 日（木）19:30～

場 所：博多都ホテル 3F 「桂の間」

出席者：上田成久、川口壽郎、末田尚之、吉峯晃一

（五十音順、敬称略）

議 題

1. 今年度の活動報告について
 - 1) 地方部会総会議事等の報告
学会・研究会の予定、学術講演会のプログラム紹介
県内専門医、補聴器相談医等の案内
耳鼻咽喉科医療機関の情報

2. 福岡県地方部会ホームページの利用について
 - 1) 利用方法の検討
 - 2) その他

3. 広報委員会の今後の方針について

4. その他